

西中だより

学校教育目標

目指す生徒像：豊かな心と学ぶ意欲を持ち、たくましく生きる生徒

目指す学校像：すべての生徒に喜びと感動を育み、笑顔あふれる西中学校

川口市立西中学校

〒332-0028

川口市宮町16-1

Tel 048-253-1231

Fax 048-251-6792

令和5年7月20日 夏休み号

ガチで、西中の生徒は最高だ！と叫びたい

校長 三浦 伸之

私が西中生だった頃、西中の校内に無人の購買部がありました。制服に付ける校章や名札、文房具などが売られていました。私も何度か利用した記憶があります。この購買部で売れた商品の数と生徒が入れた金額はいつでも一致していたそうです。当たり前のことと言えばその通りですが、今の時代に校内に無人でお金を置くことは考えられないことです。

さて、文部科学省は校則の在り方について、「校則の見直しは、児童生徒の校則に対する理解を深め、校則を自分たちのものとして守っていきこうとする態度を養うことにもつながり、児童生徒の主体性を培う機会にもなります。(令和3年6月8日付け、文部科学省初等中等教育局児童生徒課事務連絡から抜粋)」として、学校を取り巻く社会環境や児童生徒の状況の変化に応じて、校則の見直し等に取り組むことを奨励しています。

このことから西中では、昨年度から生徒会と生活委員会の生徒たちが校則の一部(靴下と靴)を取り上げ、話し合いを行ってきました。ある日、生徒指導担当の教員がその話し合いの内容をまとめたメモを私のところまで届けてくれました。

私はその話し合いのメモを見たとき、生徒たちが校則を見直すことへのメリットとデメリットについて、率直に意見を出し合いながら、実によく話し合っている様子が手に取るように伝わってきました。西中の生徒ならきっとやれるという確信にも繋がりました。

メモの一部を紹介しますと、靴下についての見直しのメリットには「白は汚れやすい、そのため購入頻度が高い」「黒や紺であれば汚れが目立たない」など、デメリットには「(白以外にしたとき)どこまでいいのかわからない」「制服に合わないのでは」「派手な色を履いてくる人がいそう」などが挙げられました。

靴についての見直しのメリットには「白一色は買い替える際に結構不便だった」「泥で汚れた白い靴はみっともない」など、デメリットには「買うのに余計なお金がかかりそう」「(白以外にしたとき)基準があいまいでわからない」「運動に不向きな靴を履いてくる人がいそう」「気が緩まないか」などが挙げられました。

これらの話し合いから生徒たちは「派手な色は制服に似合わないのではないかな。靴下、靴ともに白、紺、黒がいいのではないかな」という結論を導き出しました。

5月に行われたPTA総会の終了後に、この靴下と靴の校則の見直しについて、生徒たちの話し合いの内容についてお伝えしました。その場で保護者としてのご意見を伺い、最終的には「子供たちが決めたことならば」というご賛同をいただきました。

職員会議においても、生徒たちの決定を尊重することでまとまりました。そして、生徒たちが見直しをした決まりは、夏休み明けの9月から実施することといたしました。

9月から白以外の靴下、靴を履いて登下校する生徒がいると思いますが、生徒たちが考え、結論を出した証として、温かく見守っていただきますようお願いいたします。

西中の校歌の2番に「自治と自由と責任の旗高らかに掲げつつ」という歌詞があります。作詞された初代校長の村本精一先生は、「自治」という言葉を西中の理想の姿のひとつに掲げました。いつの時代になっても、自分たちの力で新たな未来を切り拓き、前進する西中生の姿こそが、西中の伝統と誇りだと私は信じています。

